



スリッパス (アザミウマ) について



花 卉

竹川 慶剛
上島宮農指導センター
080-1729-1637

今回は花き類で高温乾燥時に多発するスリッパス（ミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ）について紹介します。

ミカンキイロアザミウマ（主に花・蕾に寄生）…虫は体長 1.0 ～ 1.7mm。黄色黒褐色。

ミナミキイロアザミウマ（主に葉に寄生）…成虫は体長 1.3 mm前後、全体が黄色で羽の合わせ目が黒く筋状に見える。

●生理生態

卵～成虫までの期間は 10 ～ 20 日

成虫の寿命は 30 ～ 40 日

成虫の 1 匹の雌は 150 ～ 300 個を産卵し、1 ヶ月後に 300 倍に増殖します。

蛹の時期が近づくと地表へ移動し、土中で蛹になります。

休眠しないので、施設内では冬でも発生します。

施設では 2 月下旬から増加し始め、5 ～ 6 月に最も活発に活動し、初夏～初秋に大量に増加します。

成虫の飛翔能力は低く、自力で 5m 程度しか移動できません。

●被害の特徴

新葉、新芽でひっかき傷に似た症状や茎の曲がりや葉の奇形が見られます。芽の中に潜り込んでいるため、発見が難しくなります。

展開葉に寄生した場合、被害部が白く光ったように見え、周辺に小さく茶～黄色の虫が見られます。

蕾に侵入した場合、特に色の濃い品種ではカスリ状の症状が現れます。

●防除対策

耕種の防除

施設内では、作付前に除草を行い、ハウスは閉め切り、次の作付けまで 20 日以上あけ、成虫を餓死させます。

本種の発生した施設では土壌消毒を行い、蛹または成虫を死滅させます。

株や苗で持ち込まれる場合が最も多く、株や苗を購入する場合は本種が寄生しているかどうかを確認します。

黄色、青色の粘着トラップで発生の有無を観察して、発生動向に十分注意する。

木酢液を噴霧することで、スリッパスを忌避する効果があります。

砂糖を 200 倍～500 倍に希釈し、有機リン剤を溶かして噴霧すると、新芽や蕾から這いだし、舐めて死滅します。

薬剤防除

薬剤防除については、スリッパスの種類や被害等がありますのでお近くの営農センターまでお問い合わせ下さい。



春インゲン今後の管理



野 菜

平田 健輝
下島宮農指導センター
080-1729-1639

これからの時期は、ハウス内温度、湿度共に高くなってきます。このため、灰色カビや、品温の上昇による蒸れ等発生しやすくなりますので、防除や収穫後の管理、換気等は注意をお願いします。

温度管理

15 ～ 25℃で日中 30℃以上にならないように注意してください。

灌水・追肥

極端な乾燥は、収量・品質に影響するので、着莢後は少量多回数の灌水を行いスムーズに太らせませす。草勢を見ながら行い、後半は液肥で行います。

例) 穴肥 アサヒエース
液肥 トミー液肥ブラック等 (500 倍)
葉面散布 メリット青 (500 倍)

摘葉

摘葉は収穫を行いながら行い、老化葉・病葉・込み合う葉を摘葉し通風、採光を良くし、病害虫の発生を抑制しましょう。一度に沢山摘葉をすると樹勢の低下につながるため注意が必要です。

病害虫防除

ヨトウムシ類、マメハモグリバエ、スリッパス等

農薬名	使用回数	使用時期	使用回数	対象病害
アフーム乳剤	2000 倍	収穫前日	2 回	マメハモグリバエ
ブレオフロアブル	1000 倍	収穫前日	2 回	ハスモンヨトウ、ハモグリバエ
カスケード乳剤	2000 倍	収穫前日	2 回	マメハモグリバエ
バダンSG水溶剤	1500 倍	収穫前日	3 回	マメハモグリバエ

灰色カビ病

農薬名	使用回数	使用時期	使用回数	対象病害
セイビアフロアブル 20	1000 ～ 1500 倍	収穫前日	3 回	灰色カビ、菌核病
アミスター20フロアブル	2000 倍	収穫前日	3 回	灰色カビ、菌核病



中干し後の水管理

中干し終了後から穂ばらみ期前までは、間断灌水で管理し、水と空気を根に補給し根の活力を上げ登熟向上に努めてください。

穂ばらみ期から出穂期にかけては稲の体力消耗が激しくなりますので、深水管理を行いましょう。

穂肥施用

6月上旬より幼穂の観察を行い、穂肥の施用時期を見つけてみましょう。畦から1畝以上水田に入り標本を採ります。標本は株の最長葉の茎を一枚のほ場から3株以上取ります。茎は一枚ずつはいで、幼穂の長さを測ります。長さが2ミリの頃に穂肥を施用します。

穂肥の目安（出穂前25日前後……幼穂長1.0～1.5ミリ）
稲の葉色を見て適正な量を施用してください。

葉色	4未満	4以上4.5未満	4.5以上
有機苦土047	20kg	15kg	施用しない

葉色の判定は、葉色板（カラススケール）を使用してください。太陽を背にして稲の葉色を見ましょう。

病虫害防除

特別栽培においては防除回数が限られていますので、健全な稲作りと畦畔の草刈り等や、ほ場の見回りの徹底による耕種的防除と組み合わせた適期防除に努めてください。

防除の際は、使用基準を遵守し飛散等のないよう心がけるとともに、栽培管理台帳への記入をお願いします。



今月は開花期を迎え、果実外観を作る初期防除の重要な時期となります。気温も高くなり病虫害の発生が多くなりますので、適期防除に努めましょう。

1. 病虫害防除

対象病虫害	使用薬剤	倍数	備考
訪花害虫	モスピラン SL	4,000倍	開花期間
灰色カビ病	ストロビードライフロアブル	2,000倍	開花盛期～落弁期
そうか病 ホコリダニ	フロンサイド SC ※	2,000倍	開花盛期～落弁期（混用）
黒点病	ペンコゼブ水和剤 又は ジマンダイセン水和剤	600倍	
ホコリダニ	アブロードエースフロアブル	1,000倍	花にばらつきの ある場合

※かぶれやすい体質の方はロブラール（水）1,500倍を使用して下さい。（ホコリダニには効果なし）

※養蜂が行われている地区では、周辺への飛散に十分注意をしてください。

2. デコボンの生理落果防止対策

落果防止対策	ジベレリン協和液剤 (40ml)	25ppm	満開後3～5日頃 (水8ℓに1本)
	尿素	500倍	加用することで効果が上がります。

必ず子房にかかるように散布して下さい。

3. 葉面散布の実施

カルシウム、苦土の補給（生理落果の抑制と緑化促進）

目的	薬剤名	希釈倍数	備考
生理落果の抑制	ジューシーカル	800倍	どちらかを使用
	スイカル	500倍	
緑化促進	葉面マグ	200倍	

4. 幼木の管理

対象病虫害	使用薬剤	倍数	使用回数（年産）
ミカンハモグリガ アブラムシ カイガラムシ類	アドマイヤー（F）	4,000倍	3回
	モスピラン（SL）	4,000倍	3回
	ダントツ（水溶）	3,000倍	3回
ハマキムシ アゲハ類	オリオン（水）40	1,000倍	5回
	アニキ（乳）	3,000倍	4回

施肥……………芽が10cm程度伸長したら油かすを1本につき1掴み施肥しましょう。

葉面散布………尿素又は アミノジューシーN-14 それぞれ 500倍

新梢の管理…多発した新梢は芽かきを行い、枝の伸長を促すとともに、樹幹拡大を図りましょう。

トゲ処理………トゲのある品種は、柔らかい時に早め処理を行いましょう。

※農薬の適正使用を厳守しましょう。また、他作物への飛散が無いよう注意しましょう。